

障がい者とスポーツを通じた 共生社会創生事業

~スポーツで障がい者との共生社会をつくろう~

2019

NPO法人 School Green Japan

NPO SGJ

NPO法人 School Green Japanとはどんな団体？

校庭公共施設緑化事業

・みんなで芝生や緑の自然とふれあい楽しみながら健康増進とコミュニティづくりを目指します。

地域コミュニティマネジメント事業

・地域コミュニティをスポーツ団体・組織の目線でみんなと共創しコミュニティづくりのお手伝いをしています。

スポーツクラブマネジメント事業

・地域のスポーツクラブ、プロ・アマ・社会人・部活動と協働し、クラブ経営のお手伝いをしています。



スポーツから地域コミュニティづくりを

【活動目標】

・ 地域社会において、さまざまな社会的課題に取り組む手段としてスポーツを核にした活動を実施し、個性を尊重した共生社会づくりを目指す事業です。

・ 障がい者の生活の質（ＱＯＬ）の向上をスポーツを通じて取り組む。

（スポーツ実施率の向上）

・ さまざまなステークホルダーが連携・協力・対話して取り組みを推進する。

（マルチステークホルダーエンゲージメント、コレクティブインパクト）

・ 障がい者と健常者が互いを理解した「共生社会づくり」に取り組む。

（障がい者スポーツセミナー&体験会・えひめ障がい者スポーツ研究会・障がい者スポーツマネジメント・ユニバーサルツーリズム）

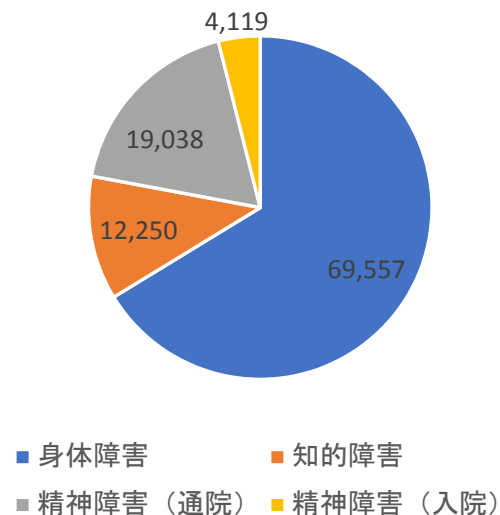
・ 障がい者の社会環境改善への取り組みを推進する。

（スポーツ施設・スポーツコンテンツの提供・人材育成・スポーツクラブとの連携・教育プログラム）

【現状と課題】

障がい者を取り巻く現状

愛媛県障がい者手帳交付人数



合計 104,964人
平成26.3.1

- ・ 障がい者自身の地域生活環境の改善
（地域生活の支援）
- ・ 保健、福祉施策の推進
（保健・医療の対策の充実、福祉人材の育成）
- ・ 特別支援教育の充実
（インクルーシブ教育）
- ・ 雇用、就業、経済的自立の支援
- ・ 障がい者差別の解消、権利の擁護
- ・ 防災、防犯対策
- ・ まちづくり
（公共施設等の整備、改善）
- ・ 生きがいづくり
（健康増進、スポーツ等の振興）
- ・ 国際交流

多種多様な課題が山積していて、
取り組んでいる分野が広くゴール
の見えない事業

第4次障害者基本計画 概要

I 第4次障害者基本計画とは

【位置付け】 **政府が講ずる障害者施策の最も基本的な計画**（障害者基本法第11条に基づき策定）

【計画期間】 **平成30(2018)年度からの5年間**

【検討経緯】 障害者政策委員会（障害当事者等で構成される内閣府の法定審議会）での1年以上にわたる審議を経て、本年2月に取りまとめられた**障害者政策委員会の意見に即して、政府で基本計画案を作成**

II 基本理念（計画の目的）

共生社会の実現に向け、障害者が、自らの決定に基づき**社会のあらゆる活動に参加し、その能力を最大限発揮して自己実現**できるよう支援

III 基本的方向

1. 2020東京パラリンピックも契機として、社会のバリア（社会的障壁）除去をより強力に推進

- 社会のあらゆる場面で、アクセシビリティ^(※)向上の視点を取り入れていく
(※) アクセシビリティ：施設・設備、サービス、情報、制度等の利用しやすさのこと。
- アクセシビリティに配慮したICT等の新技術を積極的に導入

2. 障害者権利条約の理念を尊重し、整合性を確保

(※) 障害者権利条約：我が国は平成26年に批准。障害当事者の主体的な参画等を理念とする。

- 障害者施策の意思決定過程における障害者の参画、障害者本人による意思決定の支援

3. 障害者差別の解消に向けた取組を着実に推進

- 障害者差別解消法の実効性確保のため、各分野でハード・ソフト両面から差別解消に向けた環境整備を着実に推進

4. 着実かつ効果的な実施のための成果目標を充実

第4次障害者基本計画 概要

5. 自立した生活の支援・意思決定支援の推進

- **本人の決定を尊重する意思決定支援の実施**
- **身近な地域で相談支援を受けられる体制の構築**
 - ・ 障害種別や年齢、性別等に対応した相談支援
 - ・ 発達障害者等へのピアサポートの推進
- **地域生活への移行の支援**
 - ・ 一人暮らしを支える「自立生活援助」サービスの導入
- **障害のある子供への支援の充実**
 - ・ 医療的ケアが必要な障害児への包括的支援
- **身体障害者補助犬の普及促進、福祉用具等の普及促進・研究開発**
- **障害福祉サービスの質の向上、人材の育成・確保**

6. 保健・医療の推進

- **精神障害者の早期退院と地域移行、社会的入院の解消**
 - ・ 退院後の精神障害者の支援
- **地域医療体制**
 - ・ 身近な地域で医療、リハビリを受けられる体制の充実
- **研究開発等の推進**
 - ・ 最新技術を活用した自立支援機器の開発
 - ・ 難病治療法の研究開発

7. 行政等における配慮の充実

- **司法手続や選挙における合理的配慮の提供等**
 - ・ 障害特性に応じた選挙等に関する情報提供の充実
- **アクセシビリティに配慮した行政情報の提供**
 - ・ 行政機関の窓口での配慮
 - ・ ウェブサイトにおけるキーボード操作対応や動画への字幕・音声解説の付与等の配慮

8. 雇用・就業、経済的自立の支援

- **総合的な就労支援**
 - ・ 雇用前・後の一貫した支援、就業・生活両面の一体的支援
 - ・ 精神障害者の雇用促進、就労定着支援による職場定着の推進
- **多様な就業機会の確保**
 - ・ テレワーク等の柔軟な働き方の推進
 - ・ 福祉的就労の質の向上・底上げ（工賃向上）
 - ・ 農業分野の就労支援

9. 教育の振興

- **誰もが可能な限り共に教育を受けられる仕組みの整備**
 - ・ 個別の指導計画・教育支援計画の活用を通じた全ての学校における特別支援教育の充実
- **障害のある学生の支援**
 - ・ 各大学での支援部署の設置、支援人材の養成、就職支援
- **障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実**
 - ・ 障害者の各ライフステージにおける学びの支援

10. 文化芸術活動・スポーツ等の振興

- **障害者の芸術文化活動への参加**
 - ・ 特別支援学校での質の高い文化芸術の体験
- **障害者スポーツの普及及びアスリートの育成強化**
 - ・ パラリンピック等のアスリートの育成強化

11. 国際社会での協力・連携の推進

- **国際的協調の下での障害者施策の推進**
- **文化芸術・スポーツを含む障害者の国際交流の推進**
 - ・ 障害者の文化芸術など日本の多様な魅力を発信

第4次障害者基本計画 概要

IV 総論の主な内容

- 当事者本位の総合的・分野横断的な支援
- 障害のある女性、子供、高齢者の複合的な困難や障害特性等に配慮したきめ細かい支援
- 障害者団体や経済団体とも連携した社会全体における取組の推進
- 「命の大切さ」等に関する理解の促進、社会全体における「心のバリアフリー」の取組の推進

V 各論の主な内容

1. 安全・安心な生活環境の整備

- **安全に安心して生活できる住環境の整備**
 - ・ 住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅の供給促進
- **移動しやすい環境の整備**
 - ・ 公共交通機関のバリアフリー化（ホームドア等）
- **障害者に配慮したまちづくりの推進**
 - ・ ICTを活用した歩行者移動支援

2. 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実

- **障害者に配慮した情報通信・放送・出版の普及**
 - ・ 聴覚障害者向け電話リレーサービスの体制構築
- **意思疎通支援の人材育成やサービスの利用促進**
 - ・ 手話通訳者や点訳者等の育成、確保、派遣

3. 防災、防犯等の推進

- **災害発生時における障害特性に配慮した支援**
 - ・ 福祉避難所、車いす利用者も使える仮設住宅の確保
 - ・ 音声によらない119番通報、障害特性に配慮した災害時の情報伝達体制
- **防犯対策や消費者トラブル防止の推進**
 - ・ Eメール等での110番通報、障害特性に配慮した消費者相談
 - ・ 障害者支援施設の安全体制確保

4. 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止

- **社会のあらゆる場面における障害者差別の解消**
 - ・ 障害者にも配慮した施設整備やサービス・情報提供等の一層の促進
 - ・ 障害者差別解消に係る地域協議会の設置促進
- **障害者虐待の防止、障害者の権利擁護**
 - ・ 相談支援専門員等による障害者虐待の未然防止

第4次障害者基本計画 主な成果目標

< 安全・安心な生活環境の整備 >

指標	現状値（直近値）	目標値
一定の旅客施設のバリアフリー化率 ^(注1)	87.2%（段差解消） （2016年度）	約100%（同左） （2020年度）
ノンステップバスの導入率 ^(注2)	53.3% （2016年度）	約70% （2020年度）
福祉タクシーの導入台数	15,128台 （2016年度）	約28,000台 （2020年度）

(注1) 1日当たりの平均的な利用客数が3000人以上である全ての旅客施設のうち、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準に適合するものの割合
(注2) 公共交通移動等円滑化基準の適用除外の認定を受けた車両は母数から除外

< 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実 >

指標	現状値（直近値）	目標値
対象番組の放送時間に占める字幕放送時間の割合	97.4%（NHK総合） 99.5%（民放キー5局） （2016年度）	100% ^(注1) （NHK総合・民放キー5局） （2022年度）

(注3) 対象時間を1日当たり17時から18時に拡大した上で100%

< 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止 >

指標	現状値（直近値）	目標値
障害者差別解消法の地域協議会の組織率	37.8%（一般市町村） （2017年4月）	70%以上（同左） （2022年度）

< 自立した生活の支援・意思決定支援の推進 >

指標	現状値（直近値）	目標値
発達障害者支援地域協議会の設置率	87%（都道府県・政令市） （2016年度）	100%（同左） （2022年度）
地域生活支援拠点 ^(注4) を整備している市町村又は障害福祉圏域の数	37市町村9圏域 （2017年4月）	全ての地域 （2020年度）

(注4) 居住支援のための機能（相談、緊急時の受入等）を担う拠点

< 保健・医療の推進 >

指標	現状値（直近値）	目標値
精神科病棟での1年以上の長期入院患者数	約18.5万人 （2014年度）	14.6～15.7万人 （2020年度）
都道府県の難病診療連携拠点病院の設置率	2018年4月から新たな医療提供体制を整備	100% （2022年度）

< 雇用・就業・経済的自立の支援 >

指標	現状値（直近値）	目標値
一定規模以上の企業で雇用される障害者数	49.6万人（50人以上） （2017年6月）	58.5万人（43.5人以上） （2022年度）
障害者就労施設等の物品等優先購入実績	171億円 （2016年度）	前年度比増 （～2022年度）

< 教育の振興 >

指標	現状値（直近値）	目標値
個別の指導計画等の作成を必要とする児童等のうち、実際に個別の指導計画等が作成されている児童等の割合	81.9%（指導計画） 75.7%（教育支援計画） （2016年度）	おおむね100% （2022年度）
障害学生の就職先開拓、就職活動支援を行う大学等の割合	21% （2016年度）	おおむね100% （2022年度）

< 文化芸術活動・スポーツ等の振興 >

指標	現状値（直近値）	目標値
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	19.2%（成人） 31.5%（若年層） （2015年度）	40%程度（成人） 50%程度（若年層） （2021年度）
パラリンピック競技大会における金メダル数	0個（夏季）（2016年） 3個（冬季）（2018年）	過去最高の金メダル数 （夏季2020年、冬季2022年）

第2期スポーツ基本計画について（答申）のポイント

スポーツ審議会



スポーツ基本計画・・・スポーツ基本法（2011（平成23）年公布・施行）に基づき、文部科学大臣が定める計画。第2期は2017（平成29）年度～2021（平成33）年度。

第1期基本計画



ポイント1

スポーツの価値を具現化し発信。

スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働。

～ スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life ～

「人生」が変わる！

スポーツで人生を健康で生き生きとしたものにできる。

「社会」を変える！

共生社会、健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる。

「世界」とつながる！

多様性を尊重する世界
持続可能で逆境に強い世界
クリーンでフェアな世界
に貢献できる。

「未来」を創る！

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、
スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、
レガシーとして「一億総スポーツ社会」を実現する。

2

スポーツを通じた
活力があり絆の
強い社会の実現

障害者のスポーツ実施率（週1）
19% ⇒ 40%

スポーツを通じた健康増進
女性の活躍促進

スポーツ市場規模の拡大
5.5兆円 ⇒ 15兆円（2025年）

スポーツツーリズムの関連消費額
2,204億円 ⇒ 3,800億円

戦略的な国際展開
100か国以上1,000万人以上にスポーツで貢献
2020年東京大会等の円滑な開催

など

1

「する」「みる」
「ささえる」
スポーツ参画人口
の拡大

スポーツ実施率（週1）
42% ⇒ 65%

スポーツをする時間を
持ちたいと思う中学生
58% ⇒ 80%

スポーツに関わる人材の確保・育成

総合型地域スポーツクラブの
中間支援組織を整備 47都道府県

学校施設やオープンスペースの有効活用

大学スポーツアドミニストレーター
を配置 100大学

など

ポイント2

数値を含む成果指標を第1期計画に
比べ大幅に増加（8⇒20）。

3

国際競技力の向上

オリンピック・パラリンピックにおいて
過去最高の金メダル数を獲得する等
優秀な成績を収められるよう支援

中長期の強化戦略に基づく支援
次世代アスリートの発掘・育成
スポーツ医・科学等による支援
ハイパフォーマンスセンター等の充実

4

クリーンでフェアな
スポーツの推進

インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を高める

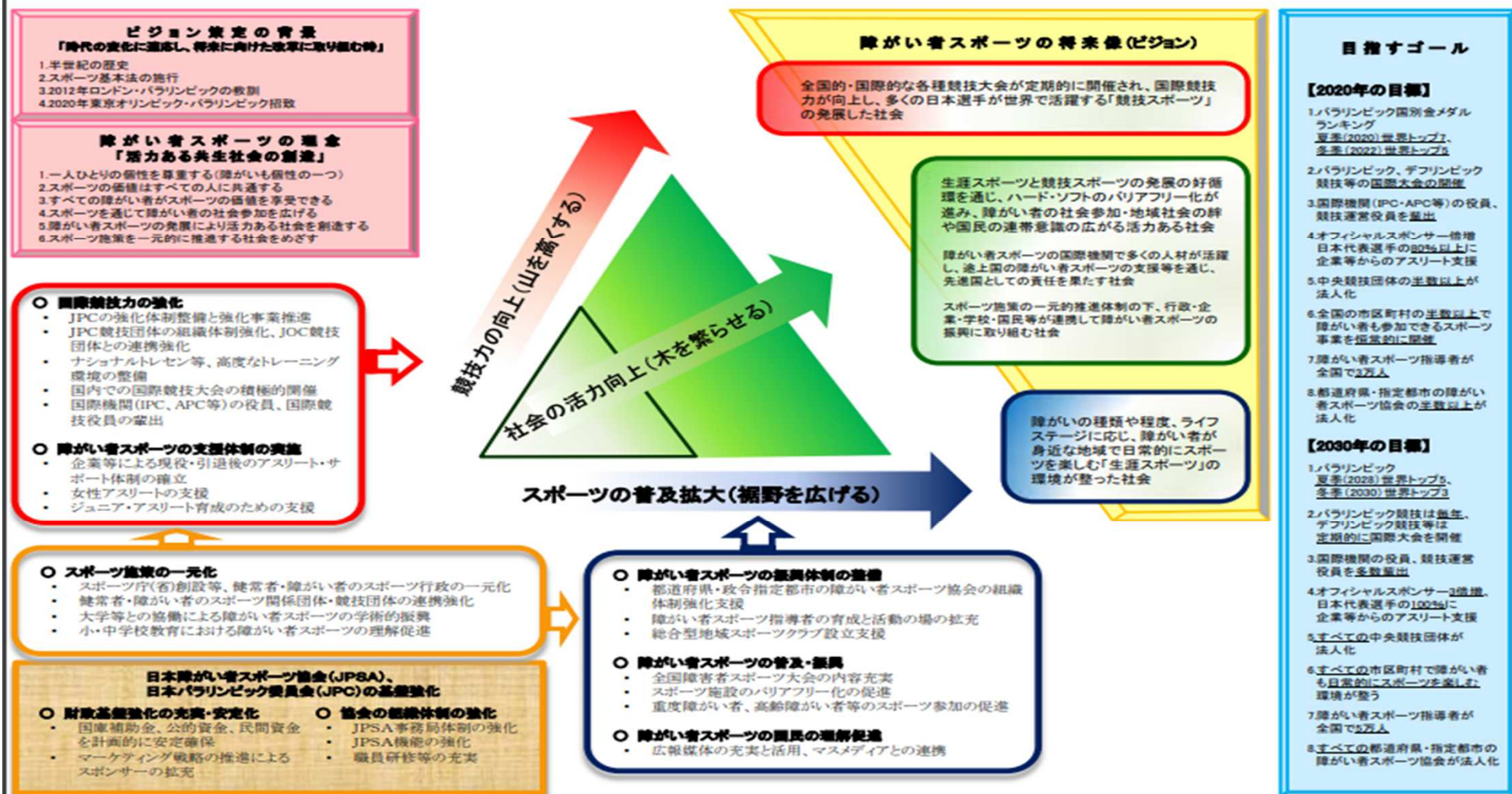
コンプライアンスの徹底
スポーツ団体のガバナンス強化
ドーピング防止

ポイント3

障害者スポーツの振興やスポーツの
成長産業化など、スポーツ庁創設後
の重点施策を盛り込む。

日本の障がい者スポーツの将来像(ビジョン)と具体的施策の概要

平成26年3月
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会



障がい者スポーツのビジョン

障がい者スポーツの理念

1. 一人ひとりの個性を尊重する
2. スポーツの価値はすべての人に共通する
3. すべての障がい者がスポーツの価値を享受できる
4. スポーツを通じて障がい者の社会参加を広げる
5. 障がい者スポーツの発展により活力ある社会を創造する
6. スポーツ施策を一元的に推進する社会をめざす

スポーツの普及拡大 (裾野を広げる)

○スポーツ施策

・ 健常者・障がい者のスポーツ行政一元化・スポーツ関係団体の連携強化・大学等との協働による学術的振興・小中学校教育における障がい者スポーツの理解促進

○障がい者スポーツの普及・振興・体制の整備・国民の理解促進

○障がいの種類や程度、ライフステージに応じ、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ「生涯スポーツ」の環境が整った社会

社会の活力向上 (木を繁らす)

○生涯スポーツと競技スポーツの発展、ハード・ソフトのバリアフリー化が進み障がい者の社会参加・地域社会の絆や国民の連帯意識の広がる活力ある社会

○スポーツ施策の一元的推進体制の下、行政・企業・学校・国民等が連携して障がい者スポーツの振興に取り組む社会

障がい者スポーツの普及促進

○ 必要性と課題

- ・ 障がい者スポーツは、障がい者スポーツを通じて自らの可能性にチャレンジし、仲間との交流やコミュニケーションが深められるよう、障がいの種類や程度に応じたクラス分け、ルールや用具を変更・考案して実施するところに特徴があり、スポーツに苦手意識を持つ子どもや高齢者等も参加可能で障がいのある人もない人も共に実践できるスポーツとしての可能性がある

- ・ 障がい者スポーツの推進は、障がい者の生きがいや生活の質の向上、地域社会の活性化、健康長寿社会の構築に貢献

- ・ 障がい者の週1回以上のスポーツ実施率は、18.2%（成人一般40.4%）

- ・ 障がい者スポーツを推進する団体や組織は脆弱

- ・ 障がい者スポーツの行政主管課や障がい者スポーツ協会が中核となり、連携・共同体制を構築し、人材や資源を十分に活用しつつ推進

○ 取組と方策

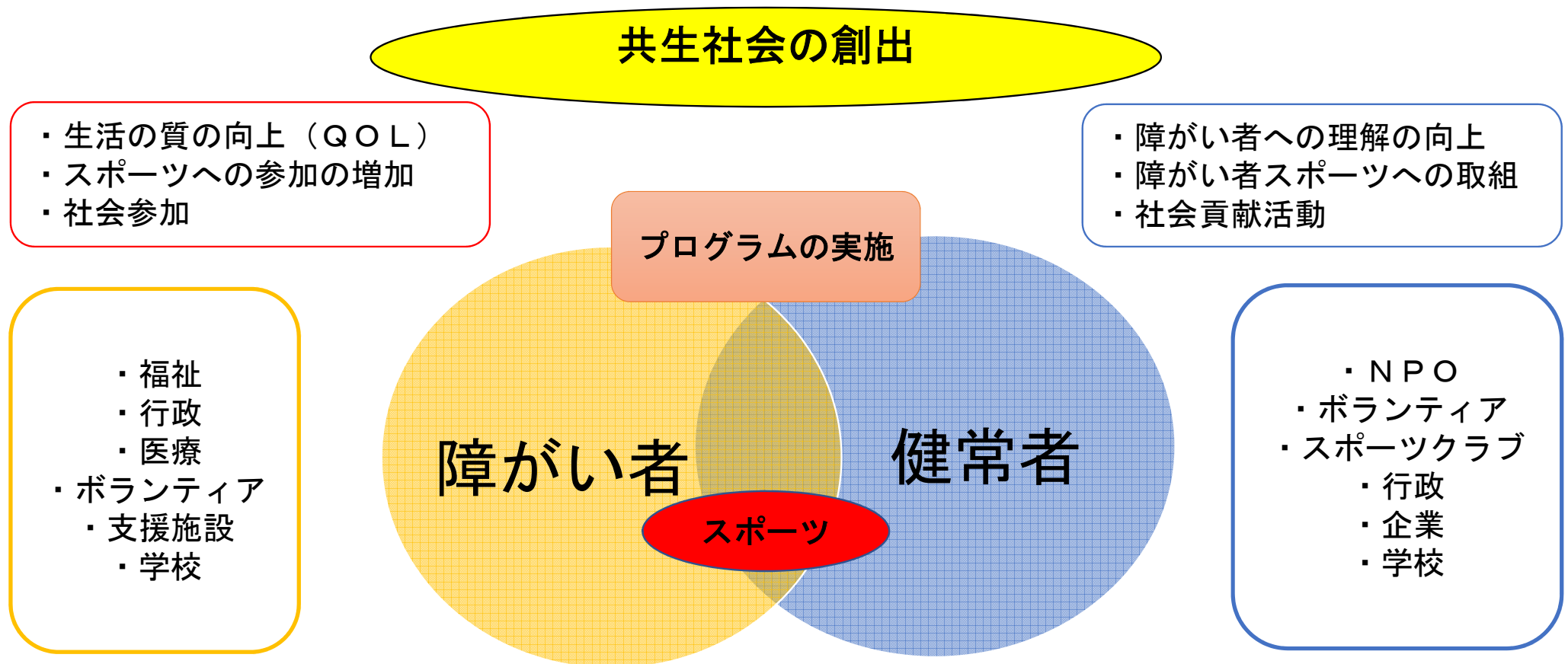
- ・ 障がい児・者のスポーツ活動の推進

- ・ 障がい者と健常者が一緒に行うスポーツ活動の推進

- ・ 障がい者スポーツに対する理解促進

- ・ 障がい者スポーツの推進体制の整備等

事業のビジョン



【SGJの活動基本コンセプト】

社会課題

テーマ

障がい者スポーツ支援

障がい者理解の推進、パラアスリートの人間力向上、競技団体の組織基盤強化と自立

産

CSR/CSV/SDGs
健康経営 ESC投資
イノベーション

官

スポーツ基本計画
スポーツ拠点整備

学

特別支援学校
大学・高校
小中学校

民

障がい者スポーツ
実施・支援団体

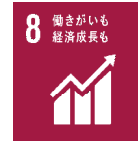
コンサルティング
&
マネジメント

協働

コレクティブインパクト

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



校園庭・公共施設緑化事業

地域コミュニティマネジメント事業

スポーツクラブマネジメント事業



社会的インパクトの創出

ステークホルダーに気づきを
「気づき」→「理解」→「評価」⇒『行動』

社会課題
解決

より良い地域共生社会
づくり

実施プログラム

【障がい者スポーツセミナー&体験会】（スポーツで障がい者との共生社会をつくろう）

日時：2019年4月～2020年3月 場所：愛媛県内を中心に県外でも実施

実施内容

- ①講演会 1. 障がい者スポーツについて 2. スポーツボランティアについて
- ②体験会 1. 車いすテニス、障がい者サッカー、車いすバスケット
- ③その他 1. パラスポ体験ポイント 2. パラスポーツガイドブック制作・配布 3. アンケート調査

(目的)

- ①障がい者に対する理解度の向上（交流） ②障がい者は身体運動の重要性、健康増進（生きがい）

【えひめ障がい者スポーツ研究会】（障がい者スポーツ関係者の情報、意見交換の場）

障がい者にかかわるマルチステークホルダーによる情報、意見交換のできる交流会

（スポーツ・医療・福祉・教育・自治体・企業・障がい者・ボランティア等）（愛媛の障がい者スポーツについてのプラットフォームづくり）

【障がい者スポーツマネジメント】（チャリティスポーツ大会・ボランティア）

（障がい者スポーツ・大会の企画運営支援）（競技団体との連携、支援）（ボランティア活動の普及と活性化）

【生きやすいまちづくり】（社会環境改善活動）

（バリアフリー調査、スポーツ・福祉施設調査）

【ユニバーサルツーリズム】

（障がい者と支援者が、旅行やアウトドアなどを楽しめるように、移動、施設、プログラム等に取り組む）

ロジックモデル

対象者 (ステークホルダー)	インプット	アウトプット	アウトカム (短期的1年~2年)	アウトカム (中期的3年~4年)	アウトカム (長期的5年以上)
NPO SGJ	・時間 ・人材（スタッフ、ボランティア） ・予算、補助金 ・備品	・プログラムの企画立案、実施 ・関係者、組織、団体との連携や取組を推進	・プログラム等の実施による効果検証と継続 ・関係者、組織、団体との連携や取組の強化、ネットワークの広がり	・プログラム等の実施拡大（実施件数、種類・種目数、参加者数） ・関係者、組織、団体との連携によりプログラム等の質の向上、組織の創設	・障がい者スポーツの普及と振興により多種多様な関係者、組織、団体と連携し、共生社会を創出する
障がい者	・時間 ・プログラム等への参加	・セミナー・体験会・イベント・大会・スポーツの実施・プログラム	・障がい者スポーツ参加への関心を喚起・障がい者スポーツの価値の享受・社会参加・みる、する	・障がい者スポーツへの参加・障がい者スポーツの場づくり・地域コミュニティへの参加	・障がい者の生活の質の向上・生きがいづくり・地域への定着・共生社会への創出
健常者	・時間 ・プログラム等への参加 ・費用	・セミナー・体験会・イベント・大会・スポーツの実施・プログラム	・障がい者スポーツ参加への関心を喚起・障がい者スポーツの価値の享受・社会参加・みる、する	・障がい者スポーツへの参加 ・障がい者スポーツの場づくり ・地域コミュニティへの参加	・障がい者の生活の質の向上・生きがいづくり・地域への定着・共生社会への創出

ロードマップ

事業項目	2018年	2019年	2020年
障がい者スポーツの普及・振興			
障がい者スポーツセミナー・イベント	○	○	○
障がい者スポーツボランティア	○	○	○
えひめ障がい者スポーツ研究会	○	○	○
障がい者スポーツマネジメント		○	○
障がい者の生活環境			
健康増進		○	○
スポーツ・公共施設・パブリックスペース整備		○	○
ユニバーサルツーリズム		○	○
教育・人材育成			
障がい者スポーツ指導員・コーチ・トレーナー・ドクター	○	○	○
スポーツボランティア・インクルーシブ教育・教材制作	○	○	○
総合型地域スポーツクラブの支援	○	○	○
企業のCSR／CSV／SDGsの支援	○	○	○

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

